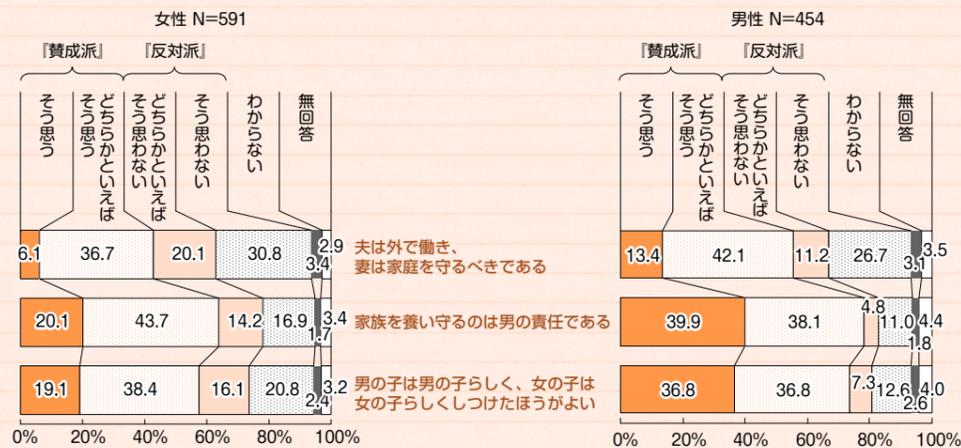


男女共同参画社会の実現について



あなたは、以下の考え方についてどのように思いますか。(〇は各項目にそれぞれ1つ)



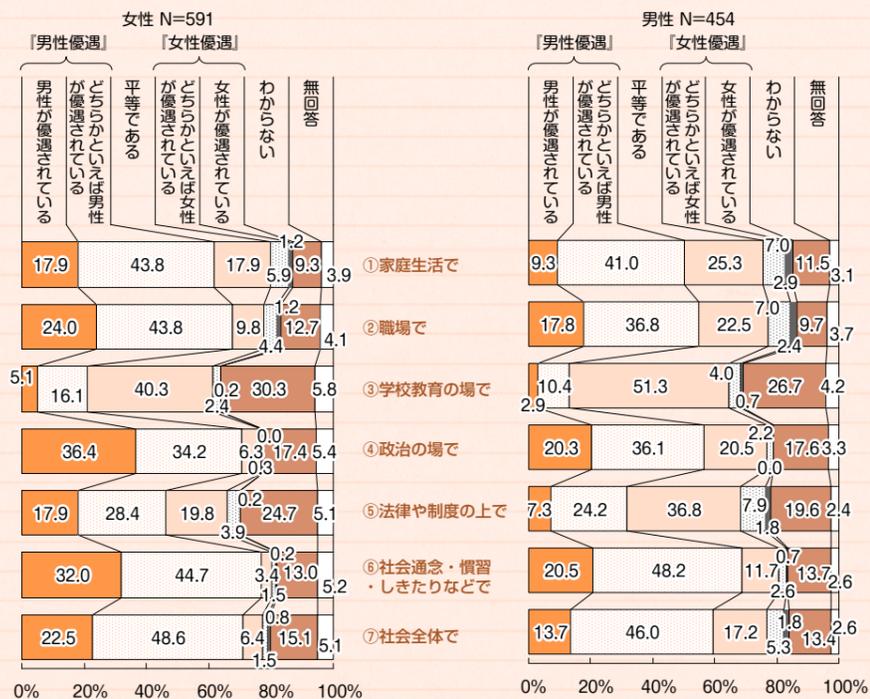
男性の半数以上が「男は仕事、女は家庭」を肯定する考え方

【夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである】といういわゆる性別役割分担意識について、『賛成派』の割合は、女性42.8%に対して男性は55.5%と高くなっています。

男性の場合、【家族を養い守るのは男の責任である】【男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしくしつけたほうがよい】についても『賛成派』の割合が女性よりも高く、固定的な考え方が強いことがうかがえます。



あなたは、社会における次の分野において、男女が平等になっていると思いますか。(〇は各項目にそれぞれ1つ)



女性のほうが「男性優遇」をより強く感じている

社会の各分野における男女平等感をたずねたところ、『男性優遇』と感じている割合をみると、女性の場合は【⑥社会通念・慣習・しきたりなどで】【⑦社会全体で】【④政治の場で】で70%を超えています。また、男性と比べて女性のほうがすべての分野で『男性優遇』の割合が高く、不平等感が強くなっています。

「女性と男性がともに暮らしやすい
橿原市をつくるためのアンケート調査結果」
概要版

橿原市 人権政策課 男女共同参画係 〒634-8586 奈良県橿原市八木町1丁目1番18号
TEL 0744-22-4001 (内線266) / FAX 0744-24-9725
E-mail jinkenseisaku@city.kashihara.nara.jp
HPアドレス <http://www.city.kashihara.nara.jp/jinken/index.html>
※調査結果の詳細はHPをご覧ください

「女性と男性がともに暮らしやすい 橿原市をつくるためのアンケート調査」 を実施しました

アンケートでわかったこと

- 仕事と家庭生活の両立ができている人はごくわずか。希望と違って、男性は仕事優先、女性は家庭優先の生活に偏っている人がたくさんいます。
- 地域活動やボランティア活動に参加していくためには、時間、情報、仲間が必要であること、女性の場合は家族の理解と協力が課題であることがわかりました。
- 配偶者やパートナーからの暴力 (DV) として、大声でどなられたことのある人は女性の5割、男性の4割を占めています。女性のほうが男性よりも暴力を受けている割合が高くなっています。
- 固定的な性別役割分担意識 (夫は外で働き、妻は家庭を守るべき) は女性よりも男性のほうが強くその傾向がみられ、全体の5割を超えています。
- 男女が平等になっていると思う分野は、【学校】で約5割。他の分野では男性優遇感が強く、【社会通念・慣習・しきたり】【社会全体】【政治の場】では7割を超えています。

調査の目的

平成20年に策定した「橿原市男女共同参画行動計画 (第2次)」の改訂にあたり、市民の男女共同参画に関する意識や実態を明らかにし、今後の施策を推進するための基礎資料とすることを目的として実施しました。

調査対象

橿原市にお住まいの20歳以上の市民3,000人 (住民基本台帳及び外国人登録原票から年齢階層別に無作為抽出)

調査方法

郵送による調査票の配布および回収

調査期間

平成24年7月27日～8月16日、9月1日～9月18日

調査内容

- ① 仕事や、仕事と生活のバランス、子育てについて
- ② 地域活動や高齢期の生活などについて
- ③ 人権の尊重について
- ④ 男女共同参画社会の実現について

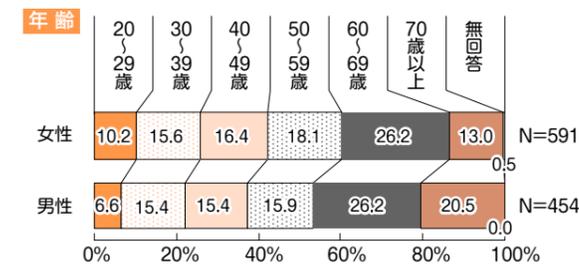
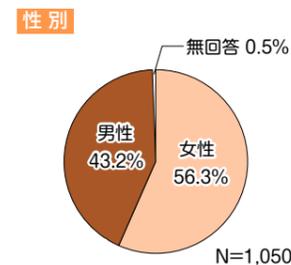
回収状況

配付数	回収数 (率)	有効回収数		
		女性	男性	不明
3,000票	1,050票 (35.0%)	591票	454票	5票

報告書概要版の見方

- (1) 図表にある「N」は、集計対象票数を示し、比率は「N」を100.0%として表しています。
- (2) グラフの数値は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。
- (3) 複数回答の場合は、合計が100%を超える場合があります。

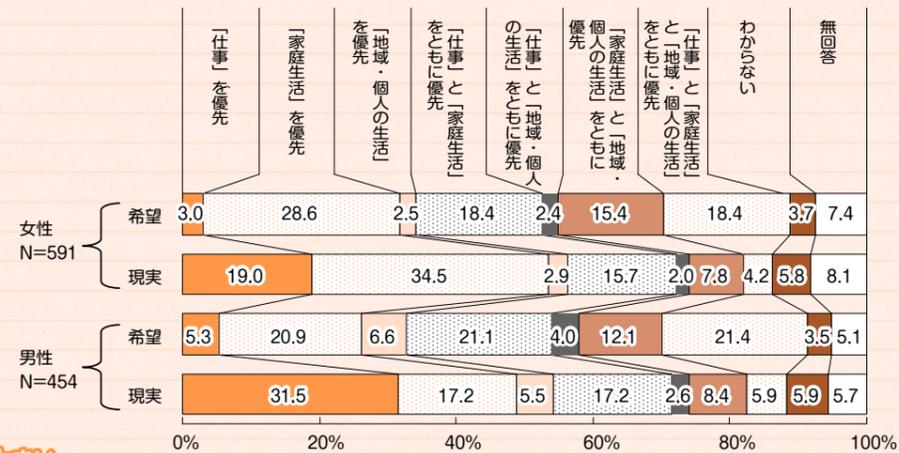
回答者の属性



仕事と生活のバランスについて



あなたの生活の中で、「仕事」と「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度についておうかがいします。あなたの現実と希望に最も近いのは、次のどれですか。(〇はそれぞれ1つ)



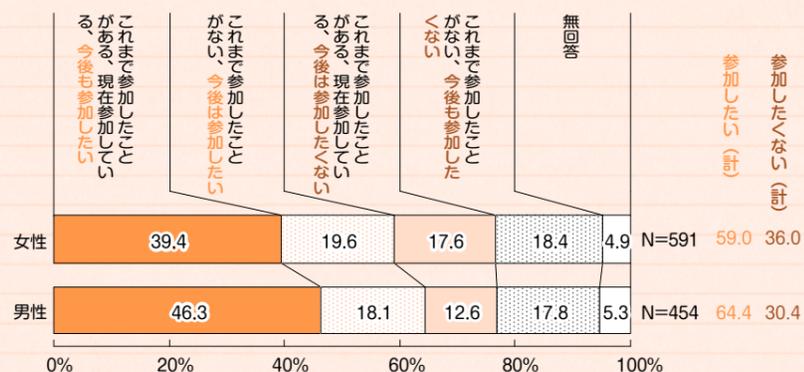
希望と現実の生活のギャップは大きい

希望する生活では、女性の場合は「『家庭生活』を優先したい」が30%弱で最も高くなっているものの、男女とも『家庭生活』『仕事』『地域・個人の生活』を複合的に優先したいとする割合が高くなっています。しかし、現実の生活では、女性は「『家庭生活』を優先している」、男性は「『仕事』を優先している」が最も高く、男女とも希望と現実がかけ離れていることがわかります。

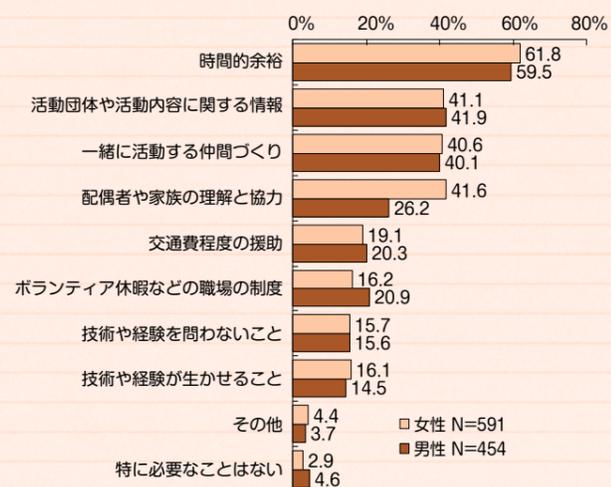
地域活動について



自治会やPTA活動、市民活動グループのボランティア活動などの地域活動について、あなたの参加状況に近いものに〇印をつけてください。(〇は1つ)



あなたは、地域活動やボランティア活動に積極的に参加するために必要なものは何だとお考えですか。(〇はいくつでも)



地域活動の参加を6割が希望。参加するためには時間的余裕、女性は家族の協力も必要

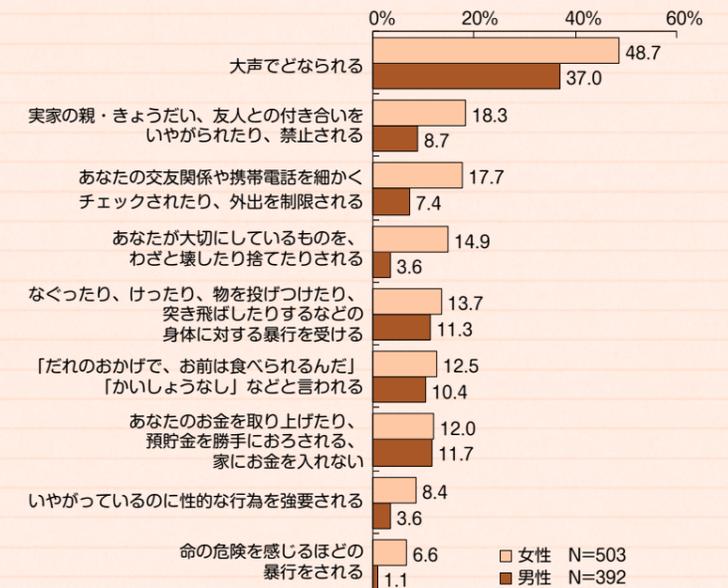
地域活動に『参加したことがある』は、女性は57.0%、男性は58.9%です。また、今後、『参加したい』は、女性は59.0%、男性は64.4%で、今後の参加意向は男性のほうが高くなっています。地域活動やボランティア活動に参加するために必要なことは、男女とも「時間的余裕」が60%で飛びぬけて高くなっています。また、女性の場合は「配偶者や家族の理解と協力」も41.6%が挙げています。

※「参加したことがある」：「これまで参加したことがある、現在参加している、今後は参加したい」と「これまで参加したことがある、現在参加している、今後は参加したくない」の合計
「参加したい」：「これまで参加したことがある、現在参加している、今後は参加したい」と「これまで参加したことがない、今後は参加したい」の合計

人権の尊重について



結婚している・したことがある方は、配偶者やパートナーから次の行為を実際にされた経験はありますか。(〇は各項目にそれぞれ1つ)



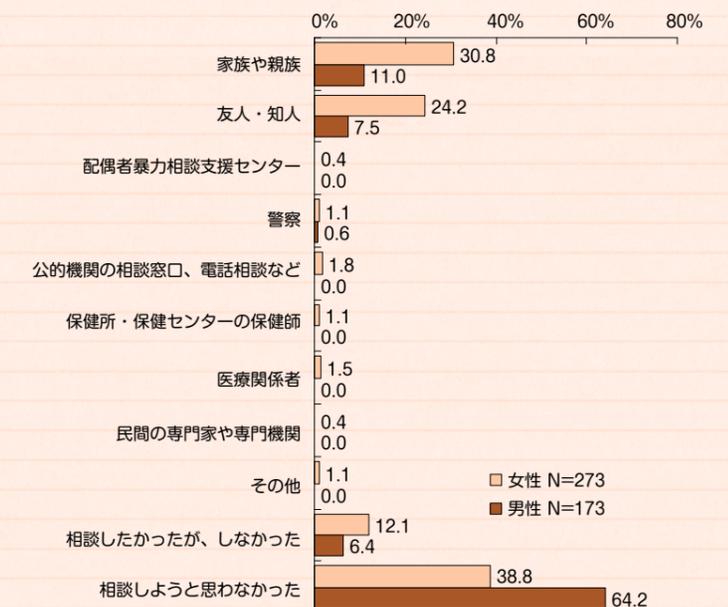
※数字は「何度もあった(ある)」と「1、2度あった(ある)」の合計

女性の約5割、男性の約4割が何度も大声でどなられた経験がある

ここであげている行為は、全て暴力にあたります。配偶者やパートナーのいる(いた)人のうち、相手から暴力の被害を受けたと答えた人は、【大声でどなられる】が女性は48.7%、男性は37.0%となっています。また、女性の場合は【「だれのおかげで、お前は食べられるんだ」「かいしようなし」などと言われる】【なくったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受ける】【いやがっているのに性的な行為を強要される】の割合も高くなっています。



暴力を受けた経験があると答えられた方におたずねします。あなたは、そのことをだれかに相談しましたか。(〇はいくつでも)



相談相手は家族や親族、友人・知人。専門機関の相談窓口はほとんど活用されていない

暴力を受けた人の相談先としては、「家族や親族」「友人・知人」が男女とも高くなっています。一方で、女性の38.8%、男性の64.2%が「相談しようと思わなかった」、女性の12.1%、男性の6.4%が「相談したかったが、しなかった」と答えています。